

題材名 「新聞を活用した社会理解」	対象 第1学年普通科「総合的な探究の時間」
----------------------	--------------------------

1. 題材のねらい

新聞に取りあげられているSDGsに関連する問題を取り上げ、同テーマでグループを作成、過去の新聞記事やインターネットから関連情報を収集、テーマ毎に解決に向けた方策をポスターにまとめて発表する。

身近なニュースをSDGsに関連付けて考察することで、目先の問題解決だけでなくグローバルな視点で問題解決に取り組む姿勢を学ぶ。内容のまとめ方を討議することで「メモする」「相手の話を聞く」「自らの意見を発言する」といったコミュニケーション能力を高める。

また、外部講師を招いて新聞の読み方や記事の取り扱い方を学ぶことで、新聞に親しむ態度を養うとともに、記事を素材とした学習を通して、質問づくりの基本となる5W1Hの視点を理解し使えるようにする。

2. 志教育の視点【かかわる】【もとめる】

情報を検索する力を養い、「質問する」という行為をとおして、「相手に関心を持つ」「相手が話しやすいように傾聴する」「話を聞きながらメモをとる」「自分の考えを表現する」など、他者と関わるための態度や技術を総合的に学ぶ。

また、新聞に関わる職業人講話から、「聞く力」「質問する力」が自分自身の成長やキャリアアップにどれほど有用なのかを理解し、自分の生活や授業への関わり方を見直す契機とする。

3. 取組の概要

「総合的な探究の時間」を活用し、新聞を使いSDGsに沿った内容を理解する。

- 6月 ○外部講師（河北新報社防災・教育室 丹野綾子氏）による「地域課題の発見・テーマを見つける」講演会
- 新聞読み取り（朝日新聞と河北新報の読み比べ）
 - ・掲載記事の取り扱いの差を見つける
 - ・記事を取り上げ、SDGsとの関連を探る

- 7月 ○グループテーマを決め、過去の新聞記事から情報を探る
 - 新聞記事の難読語句や重要キーワードを掘り下げる
 - ポスター作成

- 8月 ○ポスターセッション（グループ毎の発表）
 - 質問力を鍛える（質問力を鍛える目的説明、個人による質問づくりの実践）
 - 他者を評価する（採点基準を与え、他者を評価し、アドバイスを考える）



4. 成果や課題

新聞購読をしていない家庭も多くなり、新聞を目にすることが無い生徒も多くなっている。普段目にするニュースが意図的な要素が含まれていること、地域や町の話題がどのように取り扱われているか、記者の目によって出来事の捉え方が違うことなどを学び、相手に情報を伝える難しさや、取り扱い方について注意すべき点を学ぶことが必要である。

題材名 「身近な多様性を知る～外国人労働者と技能実習生と私」	対象 第2学年「LHR」
-----------------------------------	-----------------

1. 題材のねらい

「多様性のある社会」の担い手となる生徒たちが、身近な場所（富士フィルムオプティクス株式会社）で働いたり学んだりしている外国人労働者の実状や課題を知ること、彼らと共に働き、共に暮らす生活を自分事として考えられるようになる。

また、自分と年齢の近い若者が、どのような希望を抱き、どのような事情を抱えて外国で働く進路選択をしたのか、将来どのような夢を持っているのか、その夢のために現在どのような努力をしているのかを知ること、自分と彼らとの共通点や相違点について考えたり、自分の生き方について考えたりする契機とする。



2. 志教育の視点【かかわる】【はたす】【もとめる】

町内に複数ある大型工業団地で働いたり学んだりしている外国人労働者の講話を設定することで、生徒のみならず教員も、多様性のある社会を身近に感じ、自ら関わろうとするきっかけを持つことができると考えた。

また、外国人労働者や技能実習生の実状と課題を知ること、多様性のある社会の一員として自分にできることを果たそうという態度が育つことを期待した。

さらに、大きな選択をして日本にいる先輩たちの言葉が、進路選択の時期が迫る生徒たちの背中を押し、主体的により良く生きようとする態度を養う一助になると考えた。

3. 取組の概要

- 11月 ○外国人労働者や技能実習生との接点について、大和町商工観光課に相談。
 - 大和町から富士フィルムオプティクス株式会社へ打診。同社へ人材を派遣している2社へ富士フィルムから打診。学校・町・企業（富士フィルムオプティクス株式会社+派遣会社2社）の五者会談で実施決定。
- 1月 ○「コミュニケーション英語」の授業を活用して、外国人労働者や技能実習生に関する事前指導、話の聞き方指導を実施。
- 2月 ○学年LHR「身近な多様性を知る～外国人労働者と技能実習生と私」実施。働く側、学ぶ側だけでなく、雇用する立場からも講話をいただくことができた。直後に振り返り、感想作成。

4. 成果や課題

近隣の工業団地で働く外国人労働者は身近な存在ではあるものの、彼らの事情や思いに触れる機会は多くなかったようで、今回の講演を新鮮に感じたようである。県内においても多くの外国人労働者がいる大和町の実態を把握し、家族と離れて日本で働く気持ちや、夢を追いかける気持ちを聞き、「自分も強い気持ちで進路を考えたい」「何のために働くのかを改めて考え直した」といった感想を持つ契機となった。

目的意識を持って外国で働くことの困難に触れ、働くことの意義を考え直す良い機会を得たようである。